

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立以来かかける「六綱領」(自主・自律・堅忍・果敢・創造・開発)を基に、生徒の個々の夢を実現させる教育活動を実践し、社会人として自立でき、地域や社会に寄与する人材を輩出する。厳しく寄り添い、生徒・教職員がともに学び、ともに伸長することにより、「生徒・教職員にとって、楽しく伸び伸びと力を発揮でき、夢の実現に主体的に活動できる学校」、そして、地域との交流・連携を推進することにより、生徒・保護者・地域から愛され、信頼されるとともに、「地域に学び、地域とともに歩む学校」をめざす。

## ①夢を育み自立できる生徒を育成する学校 ～ キャリア教育・学習指導の充実 ～

生徒の持つ能力を掘り起こし、生徒の資質を磨き上げながら、「将来の夢について、自身で、自信を持って語ることでできる若者」を多く輩出できる教育活動を展開する。

## ②厳しく寄り添いながら生徒を指導・支援できる学校 ～ 生徒指導・支援体制の拡充 ～

様々な課題を抱えた生徒一人ひとりに対しての関わりを深め、保護者・地域・中学校との連携を強めながら、できる限りの支援や指導を行う。さらに教職員個々が生徒の教育者であり、且つ、「生徒の応援者」としての機能を十分に発揮できる教育環境を構築する。

## ③地域とともに歩み、地域に愛される学校 ～ 地域連携の深化 ～

地域との連携を密にし、地域の豊かな自然環境や人材・施設等を活用した教育活動を展開し、地域力を積極的に取り入れながら、生徒の「豊かな心」、「生きる力」、「自尊感情」、「規範意識」を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 授業アンケートや学校教育自己診断の結果を踏まえ、「基礎学力の向上と定着」「主体的で対話的な深い学び」をめざした授業改善を行う。

ア 数学・英語において「習熟度別少数展開授業」を実施する。生徒の実態に応じた「わかる授業」を展開し、進路に応じた選択科目を設定することで、授業・学習に興味・意欲を持つ生徒を増やす。また、教職員相互の授業見学・研究授業、および授業アンケート結果の活用等とおして「授業改善」を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の授業理解度を3年後には75%とする。(H29…69%)

イ 図書館を学校での学びのセンター的機能を持つ場と位置づけ、本に親しむ場、自学自習できる場、調べ学習や調べたこと・学んだこと・考えたことを発表できる場としての環境整備をすすめるとともに、その利活用の推進を図る。

※図書館利用者数を3年後には年間2500とする。(H29…1811人)

## 2 生徒支援体制の整備と充実化

(1) 将来の自分の生き方を設計できる力をつけることがキャリア教育であると考え、全ての教育活動をこの観点を踏まえ実践する。また「総合的な学習の時間」とLHR等を活用し、キャリア教育や人権教育等を総合的に実施し、美原の志学を確立させる。

ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等全ての教育活動を「自立した社会人を育てる」という観点から組み立てる。そのために入学から卒業までの3年間を見通した指導計画を策定する。外部人材や地域・施設の活用を積極的に取り入れ、地域に貢献できる人材を育成するよう努める。特に1年生に対して、進路に対する明確な意識を持たせることができるよう指導する。

イ「総合的な学習の時間」「LHR」を中心に、3年間を見通した人権教育の指導計画に則り、人権意識の向上を図る。課題を抱える生徒の情報について学年、人権教育委員会、支援会議で共有できる体制を作る。

※進路未定率を限りなく0%に近づける。(H29…1.3%)

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に対する肯定度を3年後には80%とする。

(2) 「ええもんはええ あかんもんはあかん」を原則に「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導を実践する。計画的に生徒理解の研修等を実施することにより意識と質の向上を図るとともに、傾聴と守秘の姿勢で生徒に向き合い、その声を受け止め、生徒理解を深める。

ア 生活習慣の確立を図り、豊かな人間性を涵養するための生徒指導を行う。

(3) 相談室の常駐体制と3C(Counseling・Coaching・Conference)ルームの活用を図り、生徒が安心して相談できる環境を整備する。また、SCを活用し校内の相談体制を充実させる。支援コーディネーター、支援会議を中心に、中学校や相談機関、医療・福祉等関係諸機関との連携の深化を図る。

(4) 特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 生徒自らが積極的、主体的に取り組む学校行事や生徒会活動、部活動等を展開し、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。

イ 体育専門コースの充実を図り、活動を地域にも広げ、将来の地域の指導者となりうる人材を育成する。

※転退学者及び留年生の減少

## 3 地域と連携した安全・安心で魅力ある学校づくり

(1) 地域への広報活動に積極的に取り組み、美原の良さをアピール、入ってよかった学校をめざす。

ア 中学校訪問、学校見学会や学校説明会等のさらなる充実を図り、美原に入りたい生徒を増やす。

イ HPをはじめICTの活用をさらに進め、広報活動を充実させる。

※生徒向け学校教育自己診断における学校行事の肯定度を3年後には85%にする。(H29年度78%)

※保護者向け学校教育自己診断の保護者への情報提供に関する項目の肯定度を3年後には70%にする。(H29年度54%)

(2) 地域の関係諸機関との連携を密にし、地域とともに歩み、生徒が安全で安心して過ごせる学校をめざす。

ア 地域と連携した生徒の自主的な活動を推進することで、生徒の自己有用感を高める。

イ 地域と連携して生徒が安全で安心して学校生活を送ることができる取組みを推進する。

ウ PTAや同窓会等と連携して、生徒が安全で安心して過ごせる教育環境整備をすすめる。

エ 地域の国際交流を推進する団体等と連携した国際理解学習、国際交流活動を推進する。

オ 外部人材の活用等により、職員の時間外労働時間の縮減をめざす。

※学校教育自己診断における施設・設備に対する満足度を3年後には生徒・保護者とも70%にする(H29年度生徒50%,保護者57%)

※学校教育自己診断における国際理解教育に対する肯定度を3年後には生徒・保護者とも80%にする(H29年度生徒76%,保護者66%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b> 回答率生徒99%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼすべての項目で昨年より肯定的回答率がやや低下した。これは1年生の回答が低かったことによる。アンケート実施時点で、進路や国際理解学習の本格実施がまだであったことや、基礎学力の定着を図る段階で、選択科目や実験・実習が他学年に比べ少ないことが要因の一つと考えられる。</li> <li>・今年度ポイントが上昇した「学校の施設、設備についてはほぼ満足している」の項目は、昨年度に続いて上昇した項目であり、図書館の蔵書充実やLAN教室の機器更新、トイレ改修等生徒が使用する場所の改善を図ったことが影響している。</li> <li>・「今のクラスに友達がいる」の項目は、3年連続でポイントが低下している。HR等での人間関係づくりだけでなく、生徒のコミュニケーション力を向上させるためには、グループワークを取り入れた授業改善などが今後の課題のひとつと言える。</li> </ul> <p><b>【保護者】</b> 回答率 保護者90% (昨年比12%増)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒とは対照的に昨年度からほとんどの項目で肯定的回答が増加した。</li> <li>・「学校のHPやまちこみメールを利用している」の項目で3年連続、ポイントが上昇した。しかし、否定的回答の割合が34.2%もあるため、HPリニューアルの案内や情報更新を積極的に行い、更なる利用に繋げたい。</li> <li>・「学校の施設、設備についてはほぼ満足できる」の項目は2年連続でポイントが低下している。これは、「授業参観、学校行事、PTA活動に積極的に参加している」の肯定的回答が29.4%とポイントが低いことから、改善状況を保護者に見ていただけていないことが一因であると考え、周知できる機会を増やしていきたい。</li> </ul> <p><b>【教職員】</b> 回答率100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「会議が教員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」や「生徒指導において、家庭との連携が出来ている」の項目が低下した。今後、働き方改革の中で、情報共有や連携が有効に機能するような方策を考えていきたい。</li> </ul>	<p>第1回(平成30年6月12日〈火〉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクターが授業で効果的に使われていて授業内容の理解に有用である。</li> <li>・美原高校での3年間を通して教わったことが、卒業後就職先でもとても活かしているという卒業生の意見をよく聞く。きっちりとした指導が人間形成のとても役立っていると感じている。</li> <li>・グループワークなど『ともに学び合う』という部分に着目した取組みを早くから実施しており、新学習指導要領実施に向けた先取りができています。</li> <li>・運動部での女子加入率が低いことや、体験入部後の新入部員の定着が弱い部分に対して対策を講じる必要がある。</li> </ul> <p>第2回(平成30年11月20日〈火〉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークについて話し合いではなく学び合いになるよう、指導が必要である。また、評価はグループワークでの他者との関わりを評価するものが良いのではないかと。</li> <li>・高校は生きる力を身に着ける場所であり、どういった生きる力を生徒に身に付けさせるかを教員間で積極的に話し合うべきだ。それにより自ずと今後の美原高校の方向性が見えてくると思う。</li> <li>・他人の意見を聞くこと、人と助け合うことが大切でそれがベースとなり生きる力につながる。</li> <li>・生徒の安否確認について、携帯電話、スマートフォン所持の規定を今後見直すことも必要である。</li> </ul> <p>第3回(平成31年2月4日〈月〉)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善の取組みを全校あげて行っているところがよい。授業アンケートの分析を踏まえ、科目ごとの今後の改善方をきちんと打ち出しているのを見ると、授業を良い方向へとアップデートさせる姿勢が感じられ、教員の意識の高さが窺われる。</li> <li>・学校評価アンケートの意見に丁寧に答えているところは、開かれた学校という印象をもたれる。</li> <li>・HPが見やすくなった。教員の事務的な時間を縮減して、生徒に関わる時間の確保に努めてほしい。</li> <li>・生徒指導に関しては、厳しいだけでなく、寄り添うという姿勢を合わせているところが良い。教員間で差が出ないよう指導内容が基準を揃えるところを意識してほしい。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力と「学び」への主体性の育成	<p>(1) 基礎学力の向上と定着をめざした授業改善の取組み ア 生徒実態に応じた「わかる授業」「主体的で対話的な深い学び」の展開</p> <p>イ 新学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントへの組織的な取組みと教員力の向上</p> <p>(2) 図書館の環境整備とその利活用の促進 ア 図書館利用を促進する環境整備 イ 図書館を活用した主体的で対話的な学びの定着</p>	<p>(1) ア・1年生英語、数学での習熟度別少人数展開授業を継続し、基礎学力の定着を図るとともに学習を大切にすることを育む。 ・3年生国語、英語で少人数展開授業を実施し、進路実現に向けて自己表現能力の充実を図るとともに、スピーチコンテストを実施し、英語でスピーチできる力を育む。 ・ICT機器のさらなる活用を進め、「主体的で対話的な深い学び」となる授業を展開する。 イ・「評価と指導の一体化」の観点から踏まえた公開授業・研究授業・授業アンケート結果の分析を行い、新学習指導要領を見据えた授業改善を図るとともに、経験年数の少ない教員を中心に他校種の授業見学を実施し、教員力の向上をめざす。</p> <p>(2) ア 学習に利用できる書籍の拡充(地域の図書館との連携も含む) ICT環境の整備 イ 調べ学習等図書館を活用した授業(グループワーク・調べ学習)の推進</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「勉強することは大切」(H29…81%)「少人数によるきめ細やかな指導」(H29…66%)昨年以上に ・少人数展開授業での生徒満足度を高める H29 満足度(1年数学 77%, 英語 86%, 3年国語 93%英語 91%) ・教職員向け学校教育自己診断の「授業における ICT 機器の利用」度(H29…94%)をさらに高める。</p> <p>イ・公開授業期間(2回)、研究授業(各教科1回)、授業改善に係る研修を(2回以上)実施する。 ・生徒向け学校教育自己診断「教え方の工夫」(H29…76%)「授業はわかりやすい」64%(H29…69%)を昨年度以上に</p> <p>(2) ア ・一年間の増加蔵書数 ・公立図書館からの団体貸出数(H29…150冊) イ ・図書館利用数並びに貸出数(H29…1811人・437冊)</p>	<p>(1)ア 自己診断の「勉強は大切」77%、「きめ細やかな指導」64%、少人数授業満足度(1年数学 74%・英語 86%、3年国語 93%・英語 85%)。「ICT利用率」(80%)と昨年を下回った項目はあったが、「授業アンケート」の「授業の様子」に係る5項目すべてで、教員平均が3.3以上となり、昨年を上回った。ICT利用に工夫がみられようになり、グループワークや生徒によるプレゼンテーションなど、アクティブな授業形態が広く行われるようになった。また、各クラスの代表者による英語スピーチコンテストを実施した。今後とも「深い学び」となる授業づくりを推進していきたい。○ イ 自己診断の「教え方の工夫」73%、「わかりやすさ」69%であったが、6月と11月の2か月間、自由に授業を見学できる期間を設け、教職員が互いに学ぶ機会を創出するとともに、新学習指導要領や高大接続改革の要点を学ぶ研修(2回)及び授業実践報告会を行う等、授業改善の取組みをすすめることができた。○ 2 (7) 無線LAN環境の整備やICTによる自学自習システムの導入等を行った。○ 1年間での増加蔵書数456冊、団体貸出数30冊 イ 図書館を活用した授業や無線LANを利用した調べ学習を行うことができるようになった。○ 利用2078人(授業461人)・貸出526冊</p>
2 生徒支援体制の整備と充実	<p>(1) キャリア教育、人権教育の推進 ア 3年間を見通したキャリア教育による進路実現</p> <p>(2) 「厳しく寄り添う」姿勢を貫いた生徒指導の実践 ア 生活習慣の確立と豊かな人間性の涵養をめざした生徒指導</p> <p>(3) 個に応じた支援体制の充実 ア 学校生活を送るうえで、様々な課題を抱えた生徒の支援の充実</p> <p>(4) 生徒の自己有用感の醸成 ア 生徒の主体的な活動の充実 イ 体育専門コースの充実</p>	<p>(1) ア・3年間を見通した進路指導計画に則り、進路指導の充実を図るとともに、早い段階から具体的な進路目標を持たせる取組みを推進する。1年生から卒業生の体験談を聞く機会を設けるなどにより、進路に対する認識や学習意欲を高め、目的意識を持った高校生活を送ることができるよう、進路講習、説明会等を充実させる。</p> <p>(2) ア・全教職員が協力した生徒指導(朝の駐輪指導、遅刻指導、校内巡回)を推進する。 ・遅刻特別指導、生活習慣確立をめざす取組みを継続実施する。 ・いじめアンケートの実施やSNSをめぐる問題の学習などを通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を育む教育を実践する。</p> <p>(3) ア・学習においてさまざまな困り感を抱える生徒に対する支援を情報共有しながら、組織として学習を支援する体制を整える。 ・支援会議を教育相談の中心に位置づけ、生徒一人ひとりへのきめ細やかな対応を行うことにより、不登校等を減少させる。</p> <p>(4) ア・体育大会、文化祭、球技大会等生徒が主体的に企画・運営・参画する行事を充実させる。 ・生徒会企画による部活動発表会を実施するとともに、あらゆる機会を通じて部活動を顕彰する。 ・地域中学生参加による部活動の大会(美高杯)、中学生対象の部活動体験等を生徒が企画、運営することにより、生徒の達成感や自己有用感を醸成する。 イ・体育専門コースで、特色ある授業を展開することにより、体育専門コースをめざす生徒を増やし、達成感を醸成する。</p>	<p>(1) ア・学校斡旋就職1次内定率 85%以上(H29…85%)、希望する大学・短大・専門学校等への進路実現率97%以上(H29年度 97.9%) ・生徒向け学校教育自己診断「進路についての適切な指導を受けられる」肯定度(H29…79%)を昨年以上に</p> <p>(2) ア・遅刻回数(校務処理システムによる遅刻カウント数)一人平均1.2回以内をめざす(H29…1.2) ・生徒向け学校教育自己診断における「生活指導」に関する肯定度的意見、昨年以上に(H29…66%) ・生徒向け学校教育自己診断における「人権」に関する肯定度、昨年以上に(H29…82%)</p> <p>(3) ア・支援会議の開催数(H29…24回) ・学校教育自己診断における「親身に相談に応じてくれる教員がいる」生徒・保護者の肯定度、昨年以上に(H29…生徒67%、保護者64%)</p> <p>(4) ア・生徒の学校行事に対する満足度、前年度を上回る(H29年度 78%) ・新入生の部活動加入率 50%以上(H29年度 50%) ・美高杯参加中学校・人数、昨年を上回る(H29年4種目38校960名) ・学校教育自己診断における「部活動はさかん」肯定度(生徒61%、保護者61%)を昨年以上に イ・体育専門コース選択生の満足度(H29…2年生98%、3年生98%)</p>	<p>(1)ア 進路指導の目標を1年「自己理解」、2年「目標設定」、3年「自己実現」と改め、学年ごとに進路意識を高めるガイダンスやカンパリング、小論文・履歴書・面接指導や職業体験等を実施するとともに、生徒が個人もしくはグループで考え自己表現する学習(プレゼンテーションや会社づくりのグループワーク)等を行った。進路指導の肯定度75%であったが、進路実現率100%(第一希望は91%)、1次内定率は93%と目標を上回った。○ (2)ア 「生活指導」の肯定度64%、「人権」の肯定度80%とやや数値は低下したが、生徒指導方針の見直し(災害時の対応等)など、全教職員がベクトルを合わせ一人ひとりの生徒が安全で安心してしっかりと学べる環境づくりに取り組んだこともあり、遅刻回数等を減少させることができた。総数は823(39人減)、年間遅刻回数一人平均1.2。○ (3)ア 学習や生活面で困り感を抱える生徒の支援のため支援会議を開催(25回)するとともに、福祉機関・部局や相談機関等と連携して対応した。○ 「相談」の肯定度、生徒68%、保護者66%。 (4)ア 自己診断の「学校行事」の満足度75%、「部活動」肯定度、生徒58%、保護者67%であったが、1年の部活動加入率が昨年を上回る(56%)○など、今年度も、体育大会・文化祭・球技大会等、生徒が企画・運営する学校行事を実施できた。また、地域のイベント(区民祭りや成人式等)に参加するとともに、地域中学生参加による部活動大会(美高杯)を実施できた。ただ、「美高杯」は、卓球・女子バスは施設や行事等の関係で実施できず(3種目・参加26校、656人)、参加校・人数とも昨年を下回った。△ イ 2年の満足度は94%であったが、3年は体育大会で学習の成果を発表するなど達成感を醸成する教育活動を展開できた。(3年の満足度100%)○</p>
3 地域と連携した安全・安心で魅力のある学校づくり	<p>(1) 広報活動を強化し、学校の魅力の発信 ア 広報活動のさらなる充実 イ ICT等を活用した情報提供</p> <p>(2) 地域と連携した取組みの推進 ア 地域と連携した生徒の自主的な活動の推進 イ 安全・安心を高める取組みの推進 ウ PTA等と連携した教育環境整備 エ 国際交流・国際理解教育の推進 オ 外部人材の活用等による職員の時間外労働時間の縮減</p>	<p>(1) ア・旧7学区以外の中学校への広報活動を実施するとともに近隣中学校との連携を強め、美原をめざす生徒を増加させる。 イ・HPを随時更新することで、本校の取組み等を発信し、広報に努めるとともに、メール配信等により保護者への適切な情報提供を行う。</p> <p>(2) ア・地域の各種イベントへの参加や協力等を通じて、生徒の自己有用感を高める。 イ・PTAや地域の外部機関等と連携しながら、生徒の安全や安心を高める取組みをすすめる。(熱中症対策や交通安全、心肺蘇生、薬物乱用防止等) ウ・PTAと連携した校内緑化活動の実施 ・PTAや同窓会等と連携した教育環境整備の推進 エ・地域の国際交流協会を推進する団体等と連携した国際理解教育の推進 ・生徒の海外語学研修を実施する。 オ・外部人材の活用等により職員の業務負担の効率化や軽減を図る。</p>	<p>(1) ア・校外での学校説明会等の参加者1,000名以上(H29年度 930名うち、地域・学校は600)、近隣の中学校訪問4回以上 イ・HPのアクセス数、年間30,000件以上に(H29…約25000件) ・保護者の学校教育自己診断における「HP・メール」利用度、昨年以上に(H29…54%) 保護者向けメール配信回数昨年度以上(H29…151)</p> <p>(2) ア・地域のイベント等への生徒参加回数・人数 イ・自転車の交通事故件数の減少(H29年度 37件) ウ・学校教育自己診断「施設・設備」の満足度(H29…生徒50%、保護者57%)を昨年以上に エ・学校教育自己診断「国際理解教育」の肯定度(H29…生徒76%、保護者63%)の向上 オ・職員の平均時間外労働時間を前年以下の水準に</p>	<p>(1)ア 近隣中学校約50校を計4回訪問し、学校の状況と教育活動を理解してもらうよう努めた。校外での説明会の参加者は目標に達しなかったが、進学フェアの参加者減によるもので、地域や学校での説明会の参加者は増え、中学生・保護者とも学校に対し大変よい印象をもたれていた。(説明会満足度95%、参加人数870名(うち地域・学校は650名)○ イ 10月にHPをリニューアルした。メール配信92回と減少したが、「HP・メール」利用度は、66%と昨年を10ポイント上回りHPアクセスは昨年より約2割増(約30,000)となった。○ (2)ア 地域のイベントや成人式での演技披露、保健健康事業への参加を基にした研究発表(計4回62人)を行った。○ イ 外部機関と連携し、生徒の安心・安全に関わる講習会や取組みを実施。自転車運転の「傘なし」運動を年間通して実施したが、事故件数は減らなかった。(H30…38件)△ ウ PTA・同窓会・地元企業からの支援も得ながら、学習や学校行事、部活動活性化のための整備をすすめることができた。○(「施設・設備」満足度…生徒69%、保護者66%) エ 「国際理解教育」の肯定度、生徒69%、保護者66%であったが、3年ぶりにオーストラリア海外語学研修を実施(参加者5人)できた。○ オ 職員の平均時間外労働は昨年度並み△だが、長時間労働(80H超)の人数は減少した。校務全般の洗い出しを行い、職員の業務分担の軽減・平準化をめざした組織改編を行うことができた。○</p>